



おくすり通信

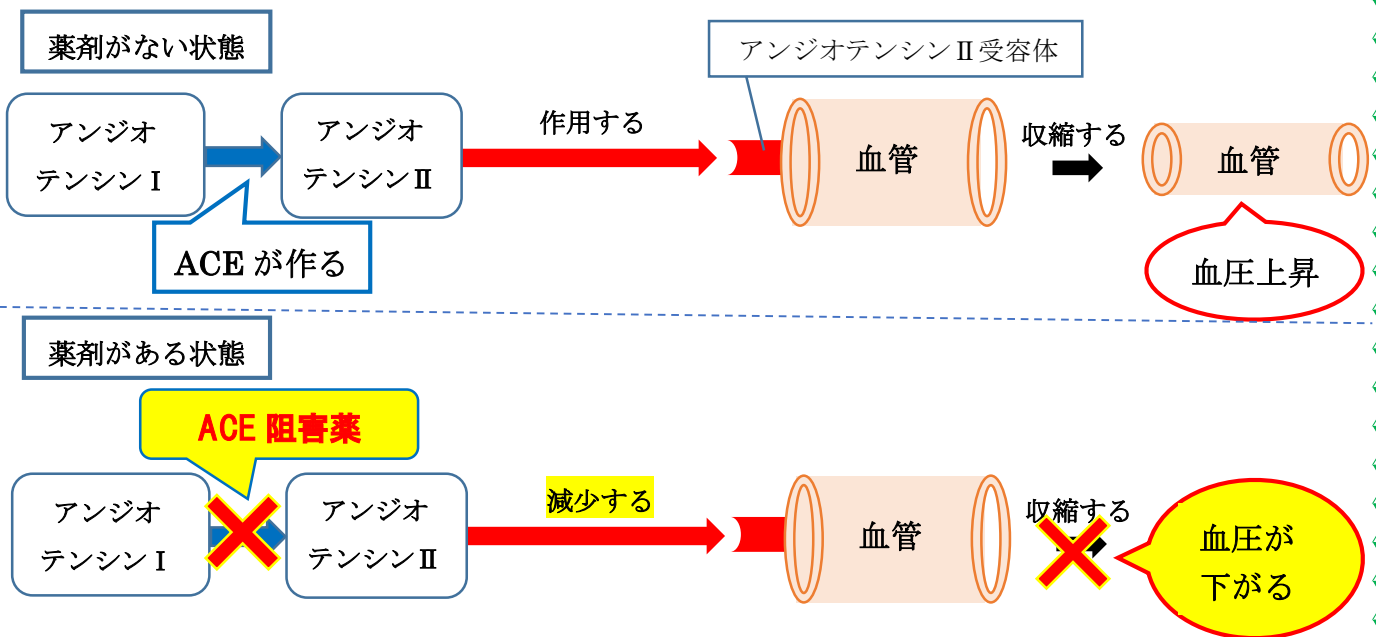
No. 35 ACE阻害薬

こんにちは、薬剤科です。今回は血管の収縮を抑制して血圧を下げる「Ca拮抗薬」についてご紹介しました。今月は、血圧を上げるホルモンを減少させて、血圧を下げる薬について説明していきます。

Ⅰ-Ⅱ 《ACE阻害薬》

体内には血圧を上げるホルモンが存在し、そのホルモンは「アンジオテンシンⅡ」と呼ばれています。このホルモンはアンジオテンシンⅠという物質から、ACE（アンジオテンシン変換酵素）という酵素の働きによって作られます。生成されたアンジオテンシンⅡは、血管に存在する「アンジオテンシンⅡ受容体」に作用します。このホルモンの働きで血管の筋肉が収縮し、血圧が上がります。

「ACE阻害薬」は酵素であるACEの働きを抑制し、血圧を上げるホルモンを減少させます。血圧を上げるホルモンであるアンジオテンシンⅡが減少すると、血管の収縮が抑制されて血圧が下がります。しかし、ACE阻害薬には空咳や喉の違和感などの副作用があります。このような症状が現れている場合は、医師・薬剤師に相談して下さい。



Ⅰ-Ⅱ 《ACE阻害薬の種類》

ACE阻害薬は多くの種類が存在するため、代表的な薬剤をご紹介します。

一般名	商品名	特徴
エナラプリル	レニベース	多くの使用実績があり、心不全にも有効である。
リシノプリル	ロンゲス	24時間安定して血圧を下げる効果がある。心不全にも有効。
イミダプリル	タナトリル	空咳の副作用の頻度が低い。腎障害のある高血圧にも使用可能。
テモカプリル	エースコール	腎障害ある高血圧にも効果があり、使用できる。
ペリンドプリル	コバシル	高血圧による心肥大や血管の負荷に対する改善作用がある。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。